

## ◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ **A型肝炎**の報告が2例(60歳代及び70歳代女性各1例)あり、症状は全身倦怠感・黄疸・肝機能異常などです。感染地域は共に国内です。本年の累積報告数は4例となりました。
- ・ **侵襲性肺炎球菌感染症**の報告が1例(80歳代女性)あり、症状は発熱・咳・菌血症です。感染地域は国内、感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年の累積報告数は48例となりました。  
京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については、下記URLを御参照ください。  
○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期の予防接種について(健康安全課ホームページ)  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>
- ・ **梅毒**の報告が2例(60歳代男性及び20歳代女性各1例)(第24週追加報告分1例含む)ありました。感染地域は国内、感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は40例となりました。
- ・ **播種性クリプトコックス症**の報告が1例(80歳代男性)あり、症状は眼内炎です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。平成26年9月19日に五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降、京都市では5例目の報告となっています。届出基準等の詳細については、下記のホームページを御参照ください。  
○厚生労働省「感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について」  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-140912-3.html>
- ・ **百日咳**の報告が2例(10歳未満及び10歳代男性各1例)(第24週追加報告分1例含む)あり、症状は持続する咳、夜間の咳き込みなどです。感染地域は国内です。本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ 定点把握の感染症は前週までと比べて大きな変化はありません。

## ◆ 今週のトピックス:<梅毒>

京都市の平成30年における梅毒の累積報告数は第25週までで40例となりました。近年の梅毒の報告数は年々増えており、本年は最近5年間で最も多かった昨年を上回るペースで増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 8例(肺結核 1例, 其他結核 3例, 潜在性結核感染者 4例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 162例(肺結核 68例, 其他結核 39例, 潜在性結核感染者 55例)うち喀痰塗抹陽性 36例】
- ・ 四類:A型肝炎 2例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 48例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 40例】
- ・ 五類:播種性クリプトコックス症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類:百日咳 2例【1月以降の累積報告数 12例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.30	314
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.88	81
	③ 手足口病	0.56	24
	④ 突発性発しん	0.53	23
	⑤ ヘルパンギーナ	0.51	22
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<梅毒>

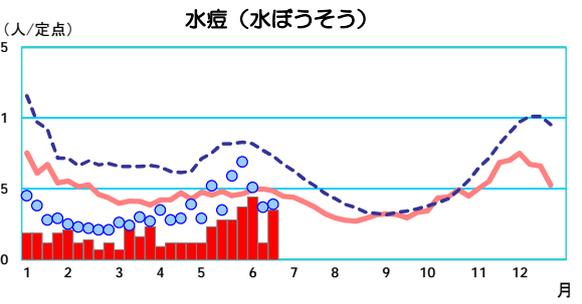
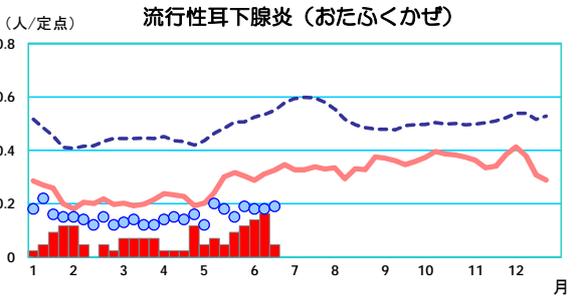
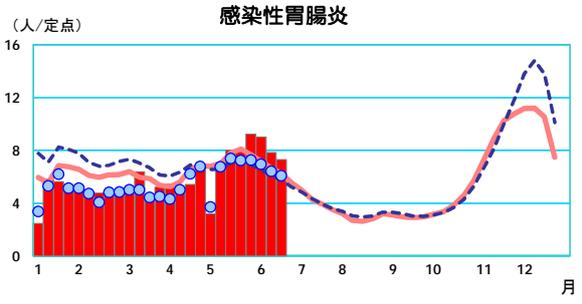
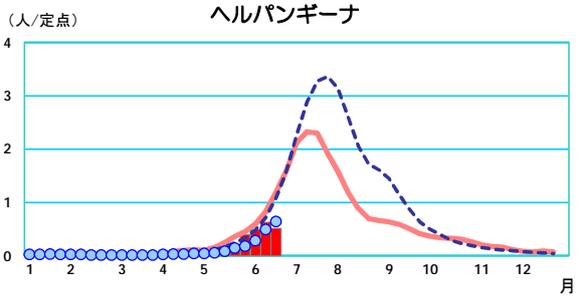
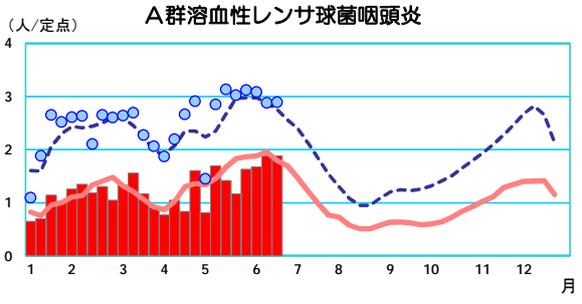
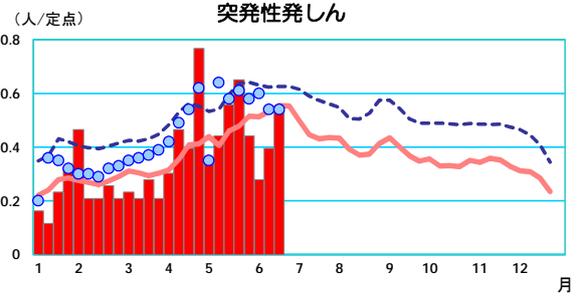
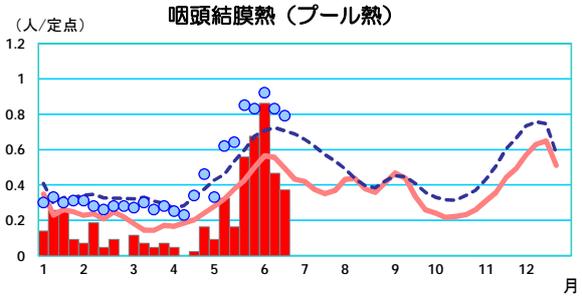
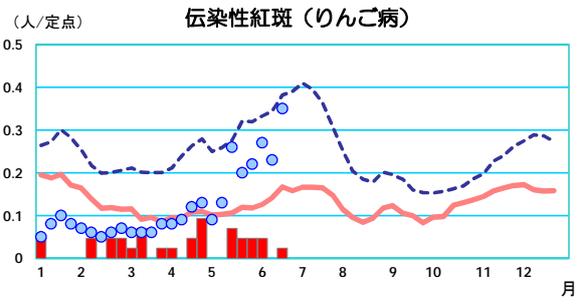
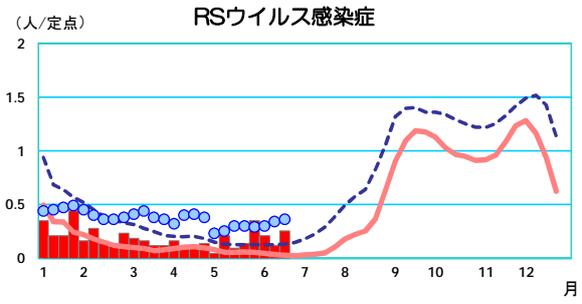
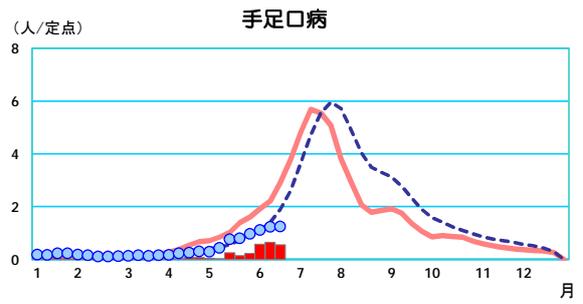
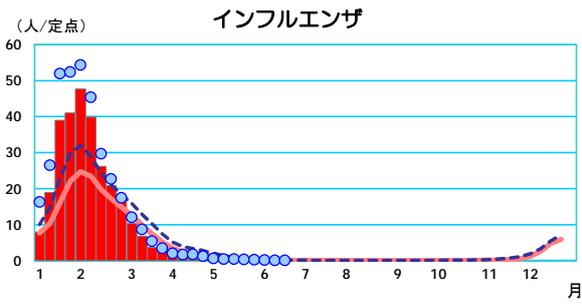
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年6月27日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



## 第25週(6月18日～6月24日)トピックス: <梅毒>

京都市の平成30年における梅毒の累積報告数は第25週までで40例となりました。近年の梅毒の報告数は年々増えており、本年は最近5年間で最も多かった昨年を上回るペースで増加しています(図1)。全国でも同様の傾向が見られ、第25週までの報告数は3,086例(前年同期期2,456例)となっています。

梅毒の歴史的な推移を全国の報告数で見ると、昭和25年は12万人を超えていましたが、急速に減少して前回東京オリンピックの昭和39年には5,300例程となり、その後は昭和42年及び昭和62年前後に一時的に流行がみられるものの、大きくは減少しないしは横ばい傾向で推移してきました。ところが平成25年に1,200例を超えてからは増加傾向に転じ、特にここ数年は京都市を含めて急速に増加しており、もはや過去の病気とは言えない状況です(図2)。

近年の全国の発生動向を、性別及び年齢階級別で3年分ずつに分けて比較すると、平成24年から26年の3年間では総数が3,764例で男性が79%、女性が21%でした。男性の年齢階級別割合は20歳以上の各年齢がそれぞれ20%前後、女性では20歳代が8%を占めていました。続く平成27年から29年の約3年では、総数が13,085例(平成24～26年の約3.5倍)、男性の各年齢の構成比に大きな変化はありませんでしたが、女性の占める割合が31%(同約1.5倍)に、特に20歳代女性の占める割合が16%(同約2倍)に増えました。更に本年第25週までの累積報告数を比較すると、男性は「20歳未満」を除いて、各年齢階級間の差が少ないのはこれまでと同様の傾向ですが、女性の割合は全体の34%、20歳代女性は17%と、どちらも徐々に増加している傾向がみられます(図3)。

梅毒急増の背景には、海外からの人の往来が激しくなったことも一因ではないかとも言われていますが、これに加えて不特定多数との性行為の増加があると見られています。報告数は医療機関を受診した患者に限られますので、自覚症状が少ない等で治療を受けておらず、他の人の感染源となる可能性のある人を含めると感染者数は更に多いと推測されます。梅毒は一度罹っても終生免疫は得られず、何度でも感染します。皮膚や粘膜に異常を感じた場合には、早めに医療機関を受診しましょう。

このほか、梅毒に関する正しい知識を身につけることが重要です。京都市衛生環境研究所では、機関誌「京都市衛生環境研究所にゆーす」で、梅毒を含む性感染症について病気の症状や予防方法を分かりやすく御紹介しています。ぜひ御覧ください。

【京都市情報館】京都市衛生環境研究所にゆーす(平成29年度第1号)「性感染症」って何?

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/29-1.pdf>

図1 京都市の月別累積報告数(平成25年～平成30年第25週)



図2 京都市及び全国の報告総数 昭和25年～平成29年

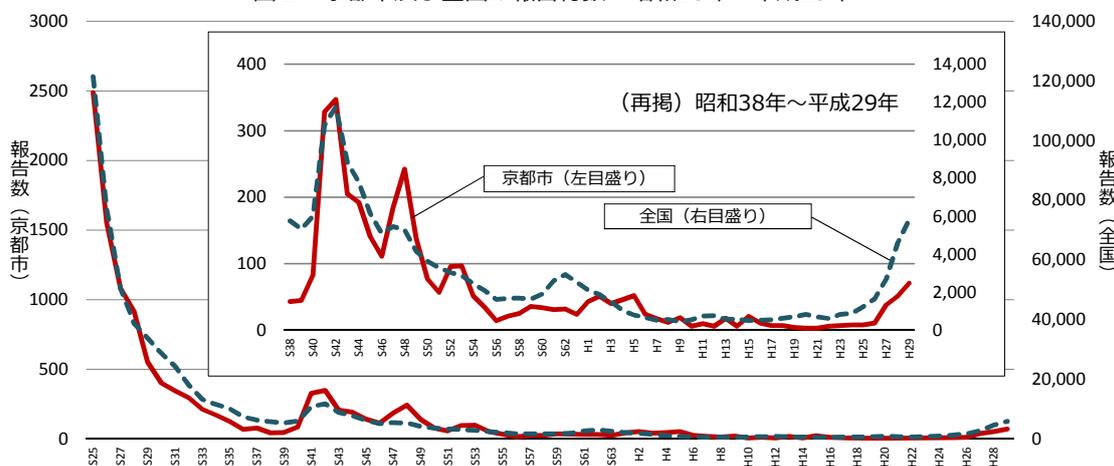
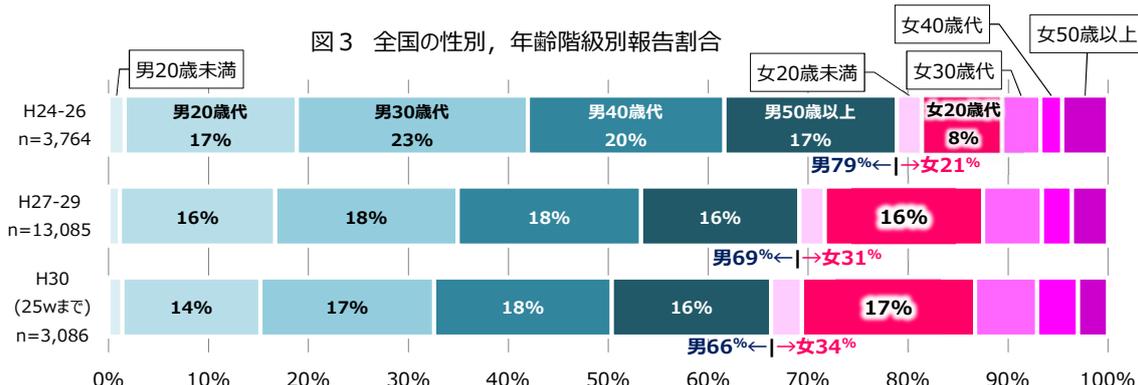


図3 全国の性別、年齢階級別報告割合



T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第25週

疾病,行政区別報告数

平成30年6月18日～平成30年6月24日

データ入手日:平成30年6月27日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	1	2	3	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-
北	-	-	1	2	3	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	2	8	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	13	99	-	5	-	4	1	-	-	1	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	8	9	-	1	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-
東山	-	3	-	-	11	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	1	1	9	5	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	7	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	7	5	2	10	-	2	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	5	21	27	4	6	-	3	7	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	1	14	80	7	2	-	6	5	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	3	10	55	4	3	1	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	11	16	81	314	15	24	1	23	22	2	-	4	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	0.25	0.50	0.75	-	-	-	-	0.25	-	-	2.00	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	0.50	0.75	-	-	-	-	0.25	-	-	2.00	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	0.67	2.67	-	1.00	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	3.25	24.75	-	1.25	-	1.00	0.25	-	-	1.00	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	2.67	3.00	-	0.33	-	-	0.67	-	-	0.50	-	-	-	-	-
東山	-	1.50	-	-	5.50	-	0.50	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	0.20	0.20	1.80	1.00	-	0.20	-	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	3.50	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	2.33	1.67	0.67	3.33	-	0.67	-	-	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	1.00	4.20	5.40	0.80	1.20	-	0.60	1.40	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.14	2.00	11.43	1.00	0.29	-	0.86	0.71	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	0.60	2.00	11.00	0.80	0.60	0.20	0.60	0.20	0.40	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.26	0.37	1.88	7.30	0.35	0.56	0.02	0.53	0.51	0.05	-	0.40	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

### 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第25週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年6月18日～平成30年6月24日

データ入手日:平成30年6月27日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	11	-	3	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		16	-	5	5	2	1	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		81	-	-	2	6	9	9	13	8	13	6	1	5	1	8	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		314	5	38	47	39	42	26	22	12	12	11	7	24	7	22	-	-	-	-	-	-	-
水痘		15	-	1	2	-	-	3	1	-	1	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		24	-	3	5	9	4	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		23	-	10	8	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		22	-	1	8	7	2	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.26	-	0.07	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.37	-	0.12	0.12	0.05	0.02	-	0.02	0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.88	-	-	0.05	0.14	0.21	0.21	0.30	0.19	0.30	0.14	0.02	0.12	0.02	0.19	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		7.30	0.12	0.88	1.09	0.91	0.98	0.60	0.51	0.28	0.28	0.26	0.16	0.56	0.16	0.51	-	-	-	-	-	-
水痘		0.35	-	0.02	0.05	-	-	0.07	0.02	-	0.02	0.07	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.56	-	0.07	0.12	0.21	0.09	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.02	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.53	-	0.23	0.19	0.09	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.51	-	0.02	0.19	0.16	0.05	0.02	0.05	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	0.40	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.10	-	0.10	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第25週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年6月27日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	16	5	2	5	-	-
RSウイルス感染症	4	6	15	9	5	11
咽頭結膜熱	7	24	29	37	20	16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	50	70	72	81	81
感染性胃腸炎	344	348	397	388	337	314
水痘	12	12	16	19	5	15
手足口病	11	6	10	25	28	24
伝染性紅斑	3	2	2	2	-	1
突発性発しん	24	28	19	12	17	23
ヘルパンギーナ	3	4	17	21	27	22
流行性耳下腺炎	2	4	5	6	7	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	10	3	2	2	6	4
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	497	492	584	598	533	513

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.23	0.07	0.03	0.07	-	-
RSウイルス感染症	0.09	0.14	0.35	0.21	0.12	0.26
咽頭結膜熱	0.16	0.56	0.67	0.86	0.47	0.37
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.42	1.16	1.63	1.67	1.88	1.88
感染性胃腸炎	8.00	8.09	9.23	9.02	7.84	7.30
水痘	0.28	0.28	0.37	0.44	0.12	0.35
手足口病	0.26	0.14	0.23	0.58	0.65	0.56
伝染性紅斑	0.07	0.05	0.05	0.05	-	0.02
突発性発しん	0.56	0.65	0.44	0.28	0.40	0.53
ヘルパンギーナ	0.07	0.09	0.40	0.49	0.63	0.51
流行性耳下腺炎	0.05	0.09	0.12	0.14	0.16	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1.00	0.30	0.20	0.20	0.60	0.40
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	12.19	11.63	13.72	14.02	12.86	12.24

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。